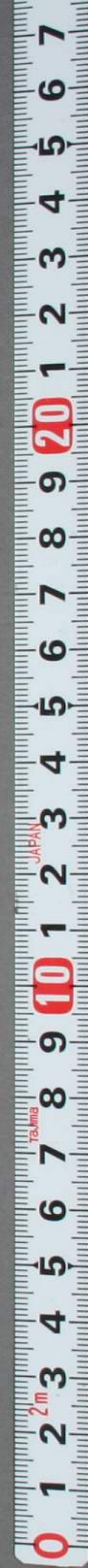




子規遺筆
三家詠草
急行列車
和子山房

特別
文庫14
A165



53-1710

急行列車

明治二十六年五月廿日

黄鹄村谷

鳴雪
明庵
子規

葉梅



雨のち葉梅の春の介

梅のち花の梅の春の介

葉梅のち花の梅の春の介

梅のち花の梅の春の介

葉梅のち花の梅の春の介

梅のち花の梅の春の介

時鳥

老松の木末のしづか

時鳥 ^番 ^〇 ¹¹⁰⁰ 時鳥のしづか

松虫のしづか

清水のしづか ^番 ^〇 ¹¹⁰⁰ 時鳥

糸のしづか 時鳥

糸のしづか 時鳥

虫証

ちあきりり 角虫あきりり

なま ^〇 ¹¹⁰⁰ 越のまきりり

大仏のしづか

時鳥 ^番 ^〇 ¹¹⁰⁰ 虫証

虫証 寺のしづか

とこしづか

夏書

新法をばとらるるにまをば
うき人をとらふ深きせんまをば
神名のまをばとらるるまをば
穢まのまをばとらるるまをば
月をばとらるるまをば
神にまをばとらるるまをば

穂麦

時をばとらるるまをば
月のまをばとらるるまをば
麦の穂をばとらるるまをば
麦の穂をばとらるるまをば
まをばとらるるまをば
まの穂をばとらるるまをば
まの穂をばとらるるまをば

花葵

花の 咲きよのり

五言 指鎖の 陣羽織 干す 葵やわ

花あふひ 不破の 雲衣の やわ

五言 笠屋こし 幾筋 赤き 葵の な

多し ちや 葵は 折る 劍の 解

七言 松が さらば ともい こそ 葵は

な 湯屋 の やせ ぶの ち 葵は

松魚

初松魚 取えの 二の 四季の 札

六七 綱 松魚 一舟 ちの 釣

五言 風下 江に 腰 きた 松魚 舟

五言 初松魚 孫の ちの 可し ば

五言 手取 乃 孫の ちの ぬ 松魚 舟

五言 入るの 世を ちの ちの 松魚 舟

源

Handwritten mark

Handwritten mark

Handwritten mark

Handwritten mark

Handwritten mark

Handwritten mark

源のたつたふは初海の上
源のたつたふは初海の上
源のたつたふは初海の上
源のたつたふは初海の上
源のたつたふは初海の上
源のたつたふは初海の上

山風山

下園や八町 五尺大悲つら

さきほろろのうらた堰の海は

のりきたるまほほのけこ風い

卯月来て青い山 山風山

さきの山は尾乃山の暮なるゆ

源のたつたふは初海の上

大神宮法樂

五ヶ谷川の新清

凡て

手書

原市本の花

杉松土よつての

市子良子の

野のまの

の

鴻の甚

河川

城

大の

此

大將の

時鳥

角田川

この飯に善根入るは

木母寺に乞へば

勝文の碑をまある蠟は

善根や 狂女の歌ひの歌

三國のうらな吹き出す

子子の枕よもよもよ角田川

時を夜を子歌のよみ

あきあき

二のりや善根を

中河原を

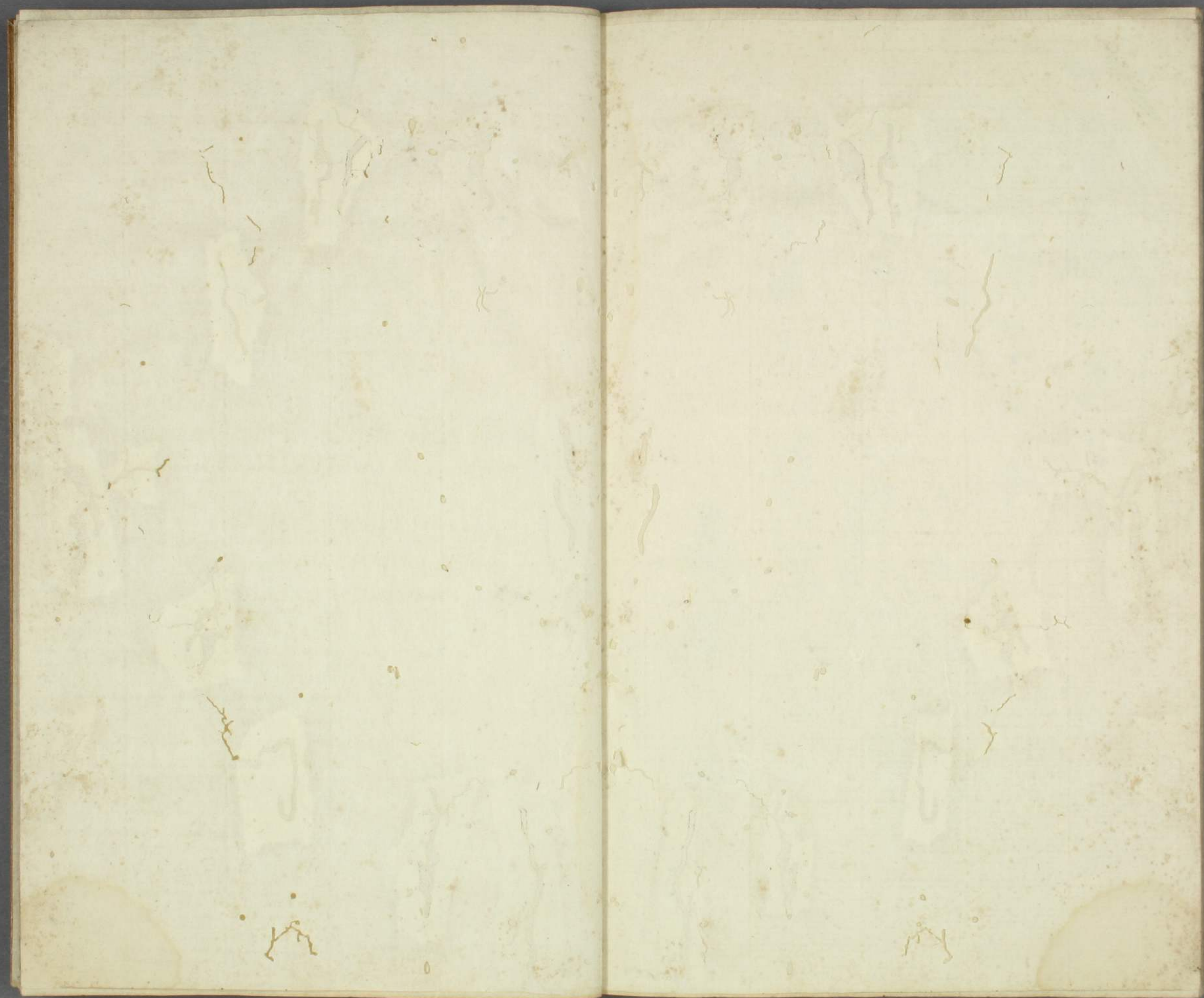
河原に

地を

人本

地を

又



以下全て
白紙

